

Ⅱ 無被覆パイプハウスにおける降雪後の対策

1 ビニールを除去したパイプハウスを撤去しない場合は、除雪作業を行うことを前提とする。

① 多雪の予報が出された場合は、写真Ⅱ-1のようにハウス周りの除雪を行い、雪がアーチパイプの肩まで積もらないようにすることが望ましい。

② 肩部直管パイプ等が雪に埋没したまま放置しておくと沈降圧により変形・折損等の原因となるので早めに掘り出しておく。

③ ハウスパイプの変形や折損は、融雪時にパイプの周りにしっかりと接着した雪が下がっていく時の力（沈降圧）で曲がるため、アーチパイプ肩の曲がり部分に雪を載せないことが肝心である。



写真Ⅱ-1 除雪を実施したハウス

④ 農業者の経験では、アーチパイプの曲がりの部分が30cm以上沈むと折損を生じるので、アーチパイプの曲がり部が雪に埋まった場合は折損防止の対策を行う。

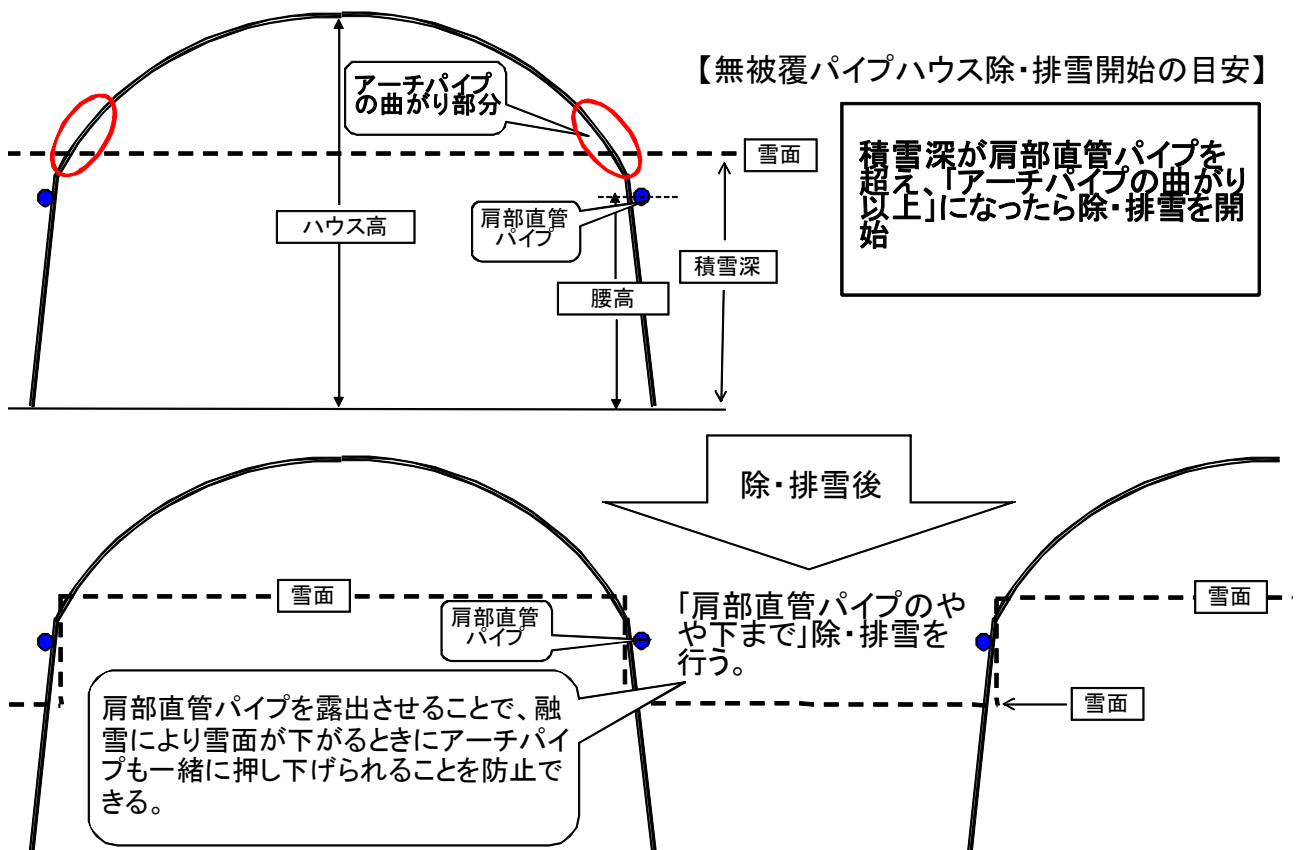
2 現地での対応事例

【アーチパイプ肩の曲がり以上に雪が積もった場合（自走式除雪機使用）】

① 大雪によりアーチパイプ肩の曲がり以上に雪が積もった場合、写真Ⅱ-2のように自走除雪機等で肩部直管パイプのやや下までハウス回りの除雪を行う。



写真Ⅱ-2 アーチパイプ肩の曲がり以上に雪が積もった状態



図Ⅱ-1 アーチパイプの肩の曲がり以上に雪が積もった場合の除・排雪方法

- ② その後、労力的に可能であれば、写真Ⅱ-3のように人力で肩部直管パイプを露出するように除雪する。



写真Ⅱ-3 人力除雪で肩部直管パイプを露出

- ③ 肩部直管パイプの露出まで除雪が難しい場合は、写真Ⅱ-4のようにアーチパイプに沿って肩部直管パイプ近くまで鋸で切れ目を入れ、雪の接着面を切り離し融雪時の沈下を防ぐことも有効な手法である。

これらの作業を行った後、融雪材等を散布しハウス内外の融雪を促進する。



写真Ⅱ-4 肩部直管パイプまで鋸で切れ目を入れる



写真Ⅱ-5 現場で農業者が使用していた鋸

【無被覆パイプハウスにおける融雪材散布方法における注意点】

アーチパイプ肩の曲がり以上に雪が積もった場合に、肩部直管パイプのやや下までハウス回りの除雪を行わないで融雪材を散布すると、自然の雪解けと同じ条件となるため、融雪時の沈降圧によりパイプが曲がったり折損する。

このことから、無被覆パイプハウスでは必ず除雪作業を行ってから融雪材を散布する。